

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年1月14日

【評価実施概要】

事業所番号	2274202403
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ
事業所名	グループホーム ケアクオリティ 桜の詩
所在地 (電話番号)	〒424-0861 静岡県静岡市清水区船越町13番地 054-353-6065
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年11月17日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 7人, 非常勤 9人, 常勤換算	7.2 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(65000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1000 円			

(4) 利用者の概要(平成 19年 11月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 79.7 歳	最低	63 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	桜ヶ丘総合病院 田村内科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の記念事業として完成した公園を借景に、周辺にはみかん畑が広がる素晴らしい環境に立つホームである。開設して1年半が経過したが、管理者始め職員の和やかな雰囲気と改善意識により円滑な運営がされ、両ユニットとも利用者の表情は明るく穏やかであった。92歳の利用者が殖やした植物類がベランダや玄関に沢山飾られ、手入れの行き届いた畑では大根や白菜が生き生きと育って他の利用者や職員の目を楽しませている。日常や行事ごとの配慮により地域でも好意的に受け止められ見守りの目となっていただけようになった。職員がさりげなく差し出す力の集合で今後も利用者の穏やかな生活を支えていただきたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回初めての外部評価受審となる。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は、初めての外部評価受審を活かすために職員全体に投げかけて全員で取り組んだ。勉強会を開催し、同じ方向を向いた介護の重要さが話し合われ、それぞれの職員がプロの自覚を持って率先してケアに向かうことの大切さなど改めて確認することが出来た。自己評価の段階で既に大きな成果が得られている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2回開催されており、ホームについての説明や防災について話し合いが持たれた。特に2回目は消防署の協力を得て起震車の体験をすることが出来、通りがかりの方や近所の方にも災害時の協力依頼の足がかりとなった。避難訓練により、居室の配置替えも必要となることから家族会開催の運びとなった。利用者の安心で安全な生活が広がるよう継続的な運営推進会議の開催が望まれる。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が訪問の際に話す機会を作って近況報告をし、家族が来れない場合や緊急のときは随時連絡し、家族からは良く説明していただいていると感謝の声があがっている。意見や苦情を出しやすいように苦情箱を玄関に設置し、さらに家族の意見や要望を運営に反映できるよう家族会の開催も予定されている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域自治会に加入して作業当番や祭りなど積極的に参加している。ホームの行事には地域にお願いと案内を出してスムーズに運営できるよう図っている。毎日の散歩の際には挨拶や会話をし地域に馴染むよう努めており、生産の野菜や果物を届けていただくこともある。公園の往き帰りに立ち寄る方もいて、ホームの存在が徐々に広がっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設の際職員で作上げた理念「私たちはご利用者様に笑顔の絶えない明るい毎日を支援し続けます。」が掲げられている。	○	運営基準等関係法令の改正に伴い、その意義を職員全員で確認し、地域密着型としてのホーム独自の理念を検討されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関ホールの上の壁の目に付きやすいところに理念は掲げられて職員が意識できるように配慮している。一日一回はみんなで笑い合えるよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に加入して作業当番や祭りなど積極的に参加している。ホームの行事には地域にお願いと案内を出して運営がスムーズに運ぶよう図っている。地域在住の職員が多く、家族がお祭りに利用者とかかけたり、子供がホームに遊びに来たりと交流している。またオープンな雰囲気から公園の帰りに寄る方もいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は評価の意義を十分に理解して、今回の自己評価に当たっては全員で勉強会を開き取り組んだ。この作業で既に多くの気づきを職員が感じ取ることが出来て、振り返りのポイントとなった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2回開催されており、ホームについての説明や防災について話し合いが持たれた。特に2回目は消防署の協力を得て起震車の体験をすることが出来た。通りがかりの方や近所の方にも災害時の協力依頼の足がかりとなった。	○	運営推進会議は2カ月に一度の開催が義務付けられていることから継続的な取り組みが求められる。

静岡県グループホームケアクオリティ桜の詩

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者についての相談で市の福祉課と連絡したり、地域包括センターからは協力をいただいている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月小遣出納帳とホーム便りを送付している。家族が訪問の際に近況報告をし、家族が来れない場合や緊急のときは随時連絡をしている。家族からは良く説明していただけると感謝の声があった。	○	家族への報告は不足無いよう、日々の様子、健康状態など個々に合わせた報告により家族の安心をより深めていただきたい。職員の交代があった場合には家族への報告や紹介により、家族が安心して依頼や相談が持ちかけられるよう取り組んでいただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時には話す機会を作って意見を引き出すように努めている。また、意見や苦情を出しやすいように苦情箱をホーム玄関に設置している。意見に対しては職員で話し合っ反映している。近く、家族会の開催が予定されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は事務室のドアを解放して、職員や利用者が自由に出入りし言いたいことを言えるように配慮している。職員面接の機会もあり、和やかな職場の雰囲気作りで職員の離職を抑えるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のユニット会議の前半30分を感染症や疾病について学ぶ勉強会にあてている。外部研修は案内を掲示して希望者は申し出て受講している。法人本部から参加を促す場合もあり職員の段階に応じた研修受講の機会がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の方と相互に訪問する機会を持ち、運営推進会議にも出席をお願いしている。リハビリ体操のビデオの貸与等出来ることを協力し合い、サービスの向上に役立てている。	○	他の同業者と交流することによるメリットは大きく、視野を広める為にも、職員レベルでの交流の実現をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所時のアセスメントにより、利用者の生活歴や嗜好を把握してホームに馴染めるよう努めている。お試し入所も可能であり、家族も利用者も安心して入居できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者には人生の先輩として料理の味付けや畑仕事について教えていただいたり、昔の話を聞かせていただいている。日々、作業や収穫を共に楽しみ、生活を支えあう中で利用者の感謝の言葉は特に職員の癒しとなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日頃の関わりの中から意向の把握に努めている。またアセスメント時の過去の生活歴等を参考にしながら本人らしい生活を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回開催しているユニット会議にて介護計画の作成、見直しが行われており、それに際し本人や家族や職員等の関わっている人からの情報を取り入れ総合的に判断している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと、状況の変化に応じた見直しが行われており、その際には本人や家族とも話し合いが行われている。	○	見直しは行われているので、書類上すぐにわかるように確認日の記入等を統一し明記されたい。また本人、家族参加の計画作成の会議がさらに増えていくことを期待したい。

静岡県グループホームケアクオリティ桜の詩

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	予定外の外出や急な受診などにも移送を行うなど、状況に応じて柔軟に対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にこれまでの主治医の継続かホームのかかりつけ医に変更するかを本人、家族に確認を取り希望に従っており、また入居後も受診時には主治医との情報交換に努めている。また往診の受け入れも行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医との連携、協力の中でホームでの生活の継続に努めているが、終末期に向けた方針の確認や体制等はまだまだ十分に検討されていない。	○	終末期に対する本人、家族の意向を継続的に確認していくと共に、ホームとしての支援方針や医療処置の対応など具体的な内容を話し合い、対応指針を定めることによって職員全体の意識の高揚が図られていくことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	見学時にも入居者に配慮した職員の対応が行われており、また個人記録も外部に触れることのないように保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースを大切に、個々にあった活動をその日の個々の希望で行うことができるように努めている。そのためにも職員間の柔軟な連携を大切にしている。		

静岡県グループホームケアクオリティ桜の詩

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が共に食事の準備や片付けを行ったり、畑で作った野菜を使ったりしており利用者個々の特性を生かしている。また時には希望に合わせて外食や公園でのお弁当も取り入れたりと食べるということを楽しみの一つとしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴する曜日を決めているが、利用者の希望に合わせて決められた以外の曜日や時間でも入浴を行っている。また足浴も随時行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	炊事や掃除といった家事から、草木の手入れや野菜の栽培など個々の特性を生かし役割や気晴らしの時間が確保されている。編み物の作品を職員や利用者にプレゼントして喜ばれている利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くに公園があり、近隣も車の通りが少ないこともあり、日常的にはほぼ毎日散歩は行われている。また希望による買い物や外食などの外出も随時行われており、利用者の楽しみの一つとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に鍵はかけていない。徘徊などの行動の見られる利用者に対しては所在の把握に努めると共に、外出するときには職員が連携の中で声掛けを行ったり、本人が納得するまでついていくなどの対応をしており、入居者のストレスにならないよう配慮されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を実施しており、前回は起震車の体験なども行っている。地域住民に対しても緊急時の協力要請を行っており、理解が深まるようホームのPRにも努めている。	○	訓練や地域との協力体制作りは行っているが、緊急時に充分に対応しきれだけの食料や水の備蓄が行われていない。必要物品の検討を行い緊急時に備え備蓄しておくことが望まれる。

静岡県グループホームケアクオリティ桜の詩

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の中に管理栄養士の有資格者がいるので栄養バランスなどの確認が行われている。また食事、水分の摂取量のチェックを行っていると共に入浴時の体重測定も行われるなど健康面に配慮をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所は清潔に保たれており、不快感は感じない。また各所に花が飾られており、季節感を感じられるとともに、明るく家庭的な雰囲気作りにも役立っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室についてはそれぞれの部屋ごとに利用者個々の特性が表れており、居心地の良い空間になっていることが伺える。		